

中国語における日源新詞の受容について

著者	張 曉娜
ファイル(説明)	博士論文全文 博士論文要旨 最終試験結果の要旨 論文審査の要旨
学位授与番号	17701甲人社研第42号
URL	http://hdl.handle.net/10232/00031486

令和2年8月19日

鹿児島大学大学院人文社会科学研究科長 殿

最終試験の概要及び結果報告書

地域政策科学専攻 氏名 張曉娜

学位論文題目

中国語における日源新詞の受容について
(The acceptance of Riyuanxinci in Chinese)

最終試験の概要

学位(博士)論文に関する最終試験を、令和2年6月27日13時より法文学部会議室において実施した。最初に申請者本人より学位申請論文の概要について説明がなされた後、4名の委員がそれぞれの立場から論文についての質問を行ったが、申請者はそれぞれの質問に対して滞ることなく自らの主張するところを説明した。

委員との間で行われた主なやり取りは次のとおりである。まず外来語の取り入れは中国語という国家レベルの言語への取り込みととらえるのではなく、人と人とのあいだで形成される言語空間において個々の語が受容されていくプロセスを想定すべきではないかという指摘があった。これに対して申請者からは、小さな言語空間ということは考えなかったが直接の対面やオンライン上での人的交流は想定した上で新詞受容のモデルを提示したことが説明された。また、外来語の定義を厳しくしたことによって見落としてしまった現象があるのではないかという指摘があった。これに対して申請者からは、たしかにその可能性はあるが、意味面を含めて外来語とすると対象の語を判別するのが極めて難しくなるため、本論文では形式面を基準としたことが説明された。そのほか、新詞の拡散過程を示す時期の名付けなど、図表による提示とその内容の妥当性に関する細かな指摘もなされた。

申請者との質疑応答の後、試験委員による協議を行った。上記のような問題点から、日源新詞の定義を語る論文の前半と具体的な調査とその考察を示す後半の論旨の接続がやや弱くなってしまっているところが残念な点である。しかしながら、先行研究の丹念な精査に基づく説得力のある独自の外来語の定義、現地調査で 300 人から得た回答による使用実態分析、メディア論の知見を背景にした従来よりも一歩踏み込んだ言語接触現象の解釈など、各章で示された議論の質は高く、今後さらなる飛躍が期待されると評価された。

以上により、博士(学術)の学位を与えるに十分な学力と見識を有するものと認定した。

授与する博士学位 学術

最終試験結果 合 否

試験委員

主査 太田一郎

副査 尾崎孝宏

副査 丹羽謙治

副査 中島祥子